



金城学院大学  
学長メッセージ

# 社会に出て輝く女性を育てる。 それがよりよい未来につながっていく。

～建学の精神を踏まえたビジョンの実現に向けて～

奥村隆平前学長の任期満了に伴い、新学長に小室尚子先生が就任しました。

任期は2020年4月から4年間。

金城学院大学の長い歴史の中で初の女性学長。

その活躍に期待が膨らむ小室学長に、めざす大学の将来像、そして中期計画への思いを伺いました。

## 先人の情熱を次代へ受け渡す。

金城学院大学初の女性学長と言われますが、この学校はもともとプロテスタント・キリスト教を建学の精神に、米国人宣教師アニー・ランドルフが創設した学校です。その後も長い間女性の宣教師がイニシアティブをとり、「神の前に男も女もない。対等な人間として育てていかなければならない」という聖書の教えに基づいた教育で本学の礎を築いてきました。ただ、女性の視点と男性の視点には違いがあり、同じものでも、見方、捉え方が違います。本学の「女性みらい研究センター」や「KIDSセンター」も、女性だからこそできた学びの場です。そういう意味でも、女性が学長という立場に立つのは大事なことだと思っていました。私がそれにふさわしいかどうかはわかりませんが、皆さんが選挙で選んでくださったので、お仕えしようと覚悟を決めました。



## 自立した大人の女性を育てることが 社会を変えていく力になる。

学長としてまず取り組みたいのは、本当の意味で輝く女性を育て、世に送り出すこと。女性はまだまだ、全然輝いていないのです。たとえば国連総会で採択されたSDGsには「ジェンダー平等を実現しよう」という目標があり、女性と男性が平等に生活を送ることのできる社会に向けて各国が取り組んでいます。

翻って日本では、政治の世界ひとつ見ても、2019年3月時点で日本の衆議院議員に占める女性の比率は10.2%。世界193カ国中165位です。まだまだ日本の社会は女性をしっかりと見ていないし、その力を認めようとしません。その一方で、多くの女性が政治や経済は男性に任せ、自分たちは3歩下がってればいいと無意識に思っています。そのような中で私たちがやるべきことは、もう一度建学の精神に立ち返り、女性たちに真の意味での自立を促すこと。そして責任をもって社会で仕事ができる女性を育てること。それが社会を変えていく力になると思っています。

## 大学は知識を享受するだけでなく 人格を形成していく場でもある。

この4月よりスタートした第3期中期計画は、2020年度から次の5年間に向かって本学が進むべき方向性を示すもの。どのように授業をつくっていくか、その授業をどう評価するか、そして学生一人ひとりのキャリア形成をどう支援していくかなど、ポリシーをもって

■ 第3期中期計画(2020～2024年度)

## 1 教育研究の推進と学習支援

### ・キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進

- 1 キリスト教主義に基づく全人教育
- 2 自ら課題を発見し、解決できる教育
- 3 国際理解の教育
- 4 研究の推進

### ・学生支援の推進

- 1 教学面での支援
- 2 生活面での支援

### ・学生の受入の推進

- 1 質の高い学生の確保
- 2 高大連携、接続

### ・教学マネジメント体制の推進

大学  
アクションプラン  
概要

## 2 地域社会との共生

### ・研究成果の社会への還元

- ・生涯学習
- ・産学官連携、地域連携



金城学院大学 学長

## 小室 尚子

金城学院大学文学部卒。東京神学大学と米ウエスタン神学校でそれぞれ神学の修士号を取得。東京神学大学大学院博士課程後期単位取得退学。専門は歴史神学、宣教学。金城学院大学助手、日本基督教団井草教会、富士見町教会牧師、東京女子大学准教授などを経て、2009年、金城学院宗教総主事・金城学院大学宗教主事・教授に。2020年、金城学院大学学長に就任。

その流れを明確にし、全教職員が情報を共有しながら行動するための指針となるものです。

まず「教育研究の推進と学習支援」については、「キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進」を第一に掲げています。金城学院はその精神に立って創立された学校ですから、時代がどう移り変わろうとも、これは揺るぎません。入学してくる学生の8割はこの学校に入って初めてキリスト教にふれます。最初は少し戸惑うかもしれませんが、でも、礼拝に出たり、キリスト教学の授業で話を聞いていく中で精神的な豊かさを養い、確実に変わっていきます。キリスト教に違和感をもつ学生もいますが、教えられたことは必ず心の中に残っていきます。それは人間形成をしていく上で内なる力になり、真の強さ、優しさを持った人間に育っていきます。国際理解の教育については、日本ではつい欧米に目を向けがちですが、今はアジアやアフリカも目覚ましい発展を遂げています。国や地域に関係なく広く世界に目を向け、世界の人々と協働し、世界の人々のために貢献できる女性を育成したいと考えています。

「学生支援の推進」では、就学支援やキャリア形成、就職活動支援をサポートする制度、仕組みが整っているので、これをさらに充実

させ、強化していくこと。幸い就職率も高く、企業からも高い評価をいただいています。

### あなたがたは地の塩、世の光である。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、2020年度がスタートしました。コロナ禍は世界の人々にとって初めての経験であり、世界が同時に体験しています。その真っ只中に私たちがいるということは言うまでもなく悲劇的なことです。しかし見方を変えれば、私たちはこの試練を次にどう活かしていくかを考える機会を与えられているのかもしれませんが。若い人たちも物事をポジティブに捉え、いろんなことを考えてこの時を乗り越えようとしています。

聖書に「あなたがたは地の塩である。世の光である」という言葉があります。つまりそれは「あなたがたは塩として、また光として生まれてきているのだから、塩として何ができるか、光として何ができるか。そのために学び研究しなさい」ということです。皆さんのこの大学での学びの時が、地の塩、世の光としてどう生きるかを見つける大事な時間となりますよう、心から祈っています。